

設計調書： VIII 仮設構造物詳細設計

仮設構造物詳細設計調書（土留工・支保工）（1 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)	(ボーリング図)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。 ①砂質土 ②粘性土 N>5 ③粘正土 N≤5</p> <p>2. ボーリング図の出典を記入すること。 3. 水位を明示すること。 4. 設計地盤面を明示すること。 5. 土留杭の施工方法を明示する。 6. 近接する地中，地上支障物件を明示する。 7. 切梁設置時の予掘深さを明示する。</p>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
	(平面図)																																																									

仮設構造物詳細設計調書（土留工・支保工）（2 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考	
		計 算 値	使 用 値		
土留工（自立式・支保工式）	親杭	土留	根入長 ^{※1}		^{※1} 1.5m以上（岩盤の場合別途） ^{※2} H-300以上 ^{※3} 3.0cm以上
			断面寸法 ^{※2}		
		方杭	応 力 度		
			支 持 力		
			最 大 変 位		
	等	土留板	断面寸法 ^{※3}		
			応 力 度		
	鋼矢板方式等 <small>（柱列式土留含む）</small>	鋼矢板方式等	根 入 長		^{※4} III型以上（鋼矢板の場合かつ市街地の場合） ^{※5} 30cm以内（鋼矢板の場合）
			断面寸法 ^{※4}		
			応 力 度		
			最 大 変 位 ^{※5}		
	支保工	腹起し 段目	間 隔 ^{※6}		^{※6} 垂直3.0m程度以下、頂部より1m程度以内（無覆工の場合を除く） ^{※7} H-300以上
断面寸法 ^{※7}					
応力度及び安全度					
切はり 段目		間 隔 ^{※8}		^{※8} 水平5.0m以下、垂直3.0m程度以下 ^{※9} H-300以上	
		断面寸法 ^{※9}			
		応力度及び安全度			
火打ち		断面寸法		(注 ¹)：次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) 掘削完了時 (b) 最下段切はり設置直前 (c) 撤去時 (d) 盛替時	
		応 力 度			
中間杭		間 隔		(注 ²)：次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) (つりあい深さ) × 1.2以上 (b) ボイリングに対する必要長 (c) ヒーピングに対する必要長 (d) 3.0m以上	
		断面寸法			
		支 持 力			
特記事項				(注 ³)：「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。	

仮設構造物詳細設計調書（締切工）（3 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図) (ボーリング図)		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
(平面図)		<p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。 ①砂質土 ②粘性土 $N > 5$ ③粘正土 $N \leq 5$</p> <p>2. ボーリング図の出典を記入すること。 3. 水位を明示すること。 4. 設計地盤面を明示すること。</p>																																																								

仮設構造物詳細設計調書（締切工）（4 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考		
		計 算 値	使 用 値			
締切工	自立式	チャンネルの式	根入長 ^{※1}		※1 仮想地盤面 + π / β 又は $2.5 / \beta$	
			断面寸法 ^{※2}		※2 II型以上 (公衆に係わる区域においてはIII型以上)	
			応 力 度			
			最大変位 ^{※3}		※3 自立高の3%以内	
		モーメント釣合法	根入長 ^{※4}		※4 (つりあい深さ) × 1.2以上	
			断面寸法 ^{※5}		※5 II型以上	
			応 力 度			
			最大変位 ^{※6}		※6 自立高の3%以内	
	二重幅縮切方式	設計対象水位	仮締切天端高			
		締切重幅	セン断変形破壊			
			滑 動			
			基礎地盤の支持			
			円弧すべり			
		縮切板	鋼	根入長 ^{※7}		※7 受動モーメント = 安全率 × 主働モーメント 又は, 3.0m以上で, どちらか大きい方
			矢	断面寸法 ^{※8}		※8 III型以上
			板	応 力 度		
引張材		引張材	間 隔			
			材 質			
		腹起材	断面寸法 ^{※9}		※9 最小28mm	
			応 力 度			
遮水効果	浸透路長	断面寸法				
		応 力 度				
特記事項						

仮設構造物詳細設計調書（路面覆工・仮橋工）（5 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物
(断面図)	(ボーリング図)	(平面図)

区分	層厚	N	r	c	φ	種類
I						
II						
III						
IV						
V						
VI						
VII						

(注) 1. 土の種類は次のとおり。
 ①砂質土
 ②粘性土 N>5
 ③粘正土 N≤5
 2. ボーリング図の出典を記入すること。
 3. 水位を明示すること。
 4. 設計地盤面を明示すること。
 5. 土留杭の施工方法を明示する。
 6. 近接する地中，地上支障物件を明示する。
 7. 切梁設置時の予掘深さを明示する。

仮設構造物詳細設計調書（路面覆工・仮橋工）（6 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考	
		計 算 値	使 用 値		
路面覆工	設計荷重（対象車輛）				※1 L/400（Lは支間）以下，2.5cm以下
	覆工板寸法				
	受 桁	断面寸法			
		応 力 度			
		たわみ※1			
	桁受け	断面寸法			
		応 力 度			
	支 持 杭	断面寸法			
		応 力 度			
		支 持 力			
仮橋工	設計荷重（対象車輛）				※2 L/400（Lは支間）以下，2.5cm以下
	幅 員				
	支 間				
	覆工板寸法				
	主 桁	断面寸法			
		応 力 度			
		たわみ※2			
	横 桁	断面寸法			
		応 力 度			
	橋 脚	断面寸法			
応 力 度					
支 持 力					
特記事項					